

平成 27 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立堀川小学校 学校協議会

1 総括についての評価

本年度の自己評価結果はおおむね妥当である。

年間指導計画に基づき国語科・算数科で言語活動の充実を図った結果、全国学力学習状況調査において全国・大阪市の平均を大きく上回る結果であった。また、保護者アンケートにおいては、楽しく子どもが学校に通っているという設問において 80%以上が肯定的な意見であった。仲間づくりを大切に、特別支援教育を充実させた結果、人権感覚豊かな子どもに育ちつつあるが来年度も引き続き指導が必要である。本校の特色であるマーチング指導に、外部からの指導者を招き、隊形移動や迫力のある演奏ができたことに参観されている方々の高い評価をいただいた。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：学力の向上

- ① 国語科・算数科で言語活動の充実を図り、指導方法の工夫・改善を行う。児童の意識調査等により意欲の向上を確認し、設問に対する無答率を下げる。また、全国学力・学習状況調査における問題Bに対する傾向と対策を練り、授業において指導を行う。
- ② 児童の読書環境の充実に向け、学校図書館の活性化を図る。「家庭読書」を啓発し、読書好きの児童を増やす。(事前事後に児童の実態調査を実施する)
- ③ 研究授業を計画的に実施し、授業実践を質的に量的に重ねる。算数科の指導法について研究し、授業力を高め具体的な手立てを探る。
- ④ これまで培ってきた言語力をベースに伝え合い自ら情報発信する力を育てる。
(マネジメント改革関連)

達成状況の評価に関しては妥当である。

算数科を研究し、導入の工夫や交流活動を柱に授業展開を考えた授業研究会を全教員が行い、指導法の工夫改善がなされていると考える。全国学力・学習状況調査の結果で、問題Bのすべての設問に対して全国平均を上回り目標を達成した。「どくしょつうちょう」や図書館補助員の充実により、読書をすすんでする子どもに育っている。また、英語学習に興味を持ち、アンケートでは 80%以上の子どもが英語活動が楽しかったと答えている。

年度目標：道徳力・社会性の育成

- ① 児童相互の人間形成を図るため、児童の状況に応じた多様な支援に取り組む。場に応じた挨拶ができる児童を増やす。(事前事後に児童の実態調査を実施する)
- ② 配慮を要する児童に対する校内外の研修に積極的に参加し、組織立てた取り組みを実践する。
- ③ 特別支援教育を充実させ、生活の自立に対して、保護者と共に評価できるようにする。
- ④ たてわり班活動を活発に行い、たてわり班長を中心にした活動の充実を図る。
(カリキュラム改革関連)

達成状況の評価に関しては妥当である。

元気に進んであいさつする児童が増えているが場に応じたあいさつができる児童が増えているとは言い難い。そこで来年度もあいさつの大切さを知らせ、今年度同様の取り組みを継続してもらいたい。特別支援教育については、一人一人の実態に応じた指導や助言

がなされていることが保護者へのアンケートでも評価されている。

たてわり班長を中心とした異学年交流を深めることができおり、子どもたちへのアンケートにおいても設定指標も上回っている。

年度目標：健康・体力の保持増進

- ① 児童が生涯にわたる健康の基礎となる運動習慣や食習慣などを確立する。狭い運動場にも対応できるよう、体育授業の工夫を行ったり、体育的な行事を工夫したりして、体力調査で全国平均を下回る種目について、全学年で向上させる。
- ② けがの予防に努め、前年度の実績よりけが発生率を抑える。
- ③ 健康に関する取り組みや指導を通して、基本的な生活習慣を確立し、「早寝、早起き、朝ごはん」の実践力を高める。

(マネジメント改革・カリキュラム改革関連)

達成状況の評価に関しては妥当である。

体育学習や体育的な行事を工夫したりして体力維持に努めてきたが全国運動能力調査の結果においては全国・大阪市平均を下回る結果となった。しかし、縄跳び運動に音楽を取り入れてリズムよく跳べるよう指導したり、かけあし集会で持久力を高めたりすることを通して運動に親しむ子どもが育ちつつある。

「けがマップ」の作成や「ほけんだより」などの保護者への連絡などのきめ細かな指導や取り組みによりけがの件数は減ってきているが医療機関にかかるけがの発生件数は、昨年度よりやや増加した。

手洗い・うがい・歯みがきの習慣は、夏休み・冬休みのチェックカードの結果向上し習慣が定着してきている。さらに安全で健康な生活習慣の定着に向けて家庭への啓発行い、学校と家庭の両方で継続的に指導していく。

年度目標：本校の特色

- ① 本校が保護者や地域住民をはじめとする学校関係者の協力を得て、学校の特色と課題に取り組む。伝統あるマーチングをより特色あるものに創作する。
- ② 幼小連携の取り組みに対して打ち合わせを行い、児童、幼児にとっても、指導者にとっても充実したものにする。
- ③ 校内の美化を計画的に推進し、美しい学校をつくる。

(ガバナンス改革関連)

達成状況の評価に関しては妥当である。

隊形移動など工夫したマーチングの取り組みについて保護者・地域への情報発信を行いながら実施したことで理解が得られ評価目標も達成できたと考える。

幼少交流については、全クラスが計画を立て、絵本の読み聞かせをしたり大縄跳びをしたりして児童と園児の充実した密な交流ができている。

日々の適切な校内整備、環境委員会による清掃点検と表彰等、安全と美化について計画通りに行うことができている。

3 今後の学校運営についての意見

「知・徳・体」において「知」の部分については概ね育てていることができているが「体」の部分については不十分といえる。今後、運動の楽しさを味わわせることを通して体育の学習で工夫した指導を行ってほしい。また、言語活動をどの教科にも取り入れ、「根拠をもって表現する」ように徹底し、思考力を高めるような指導をしてほしい。学校アンケートでは「子どもが楽しく学校に行っている」という肯定的な意見が多かったようなので、来年度に向けて仲間づくりを軸に子どもが楽しいと思えるよう学校運営をしてもらいたい。昨年度に引き続き、児童の登下校の安全を図るため登校指導の継続と充実を図ってもらいたい。